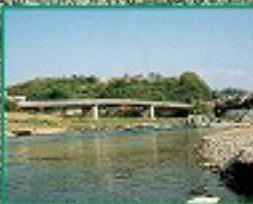


# しもいち わりばし

高級杉箸  
美林から生まれる



作りは森林の環境保全に役立っています。



大和の箸は寛政8年に、吉野杉の丸木(酒樽)の端材である木皮丸(こわまる)を材料に、大和下市で生産をはじめました。端材が捨てられるのを惜しんで考案された有効利用の地場産業です。

以来200有余年、木材の用途こそ建築材に変わりましたが、箸の素材は同じです。青板とよばれる端材の中から、木目とつや、形、割理性(割れ方)などを吟味して選ばれます。

いまでもなく箸は、日本の食文化、とりわけ外食には欠かせない道具。機能と便利さ、清潔で衛生的であることから注目されはじめています。

環境保護の立場から、ささやかながら緑の資源を守る一翼を担いつつ進んでいるのが割箸産業です。

下市町商工会

# 商工会にご相談ください

商工会は「法律」に基づいて国・県の認可により設立された公益法人で、地域商工業の発展ばかりでなく、地域全体の社会福祉にも貢献する総合経済団体です。

各市町村には商工会または商工会議所が原則として一つづつ設置されています。



## 商工会で受けられる主な相談内容



- |           |                        |            |                          |
|-----------|------------------------|------------|--------------------------|
| <b>税務</b> | 税金のことや節税の方法などを知りたいとき   | <b>経営</b>  | 経営診断や創業・経営革新について         |
| <b>金融</b> | 事業用資金を調達したいとき          | <b>法律</b>  | 紛争の法的解決の方法を知りたいとき        |
| <b>労務</b> | 労災・雇用保険、就業規則など労使関係について | <b>取引</b>  | 取引関係を扱うたいとき              |
| <b>経理</b> | 帳簿のつけ方や決算、パソコン会計などについて | <b>その他</b> | パソコンによる情報化促進、知的財産権などについて |

■常時ご相談をお受けしています。

### 中小企業者のための…

#### 総合火災共済

あなたの企業をまもる安心プラン  
格安の掛金で幅広く共済金が支払われます。

火災・落雷・破裂または爆発・物体の落下・衝突・デモ等の損害・水害・盗難等

##### ■対象となるもの

- 住宅、店舗、事務所などの建物その他不動産
- 家財、設備、装置、機械、工具、什器、商品、原料、半製品その他動産

#### 自動車事故 見舞金共済

被害者への補償は保険でまかねえます。  
あなた(契約者)の経済的負担は、どうしますか…?

加害者・被害者・自損事故を問わず、  
あなた(契約者)に共済金をお支払いします。

##### ●保障金額(詳しくは地域商工会へ)

死亡共済金…300万円 徒道障害共済金…10~300万円  
医療共済金…1日につき 入院:3,000円 通院:1,500円

##### ●共済掛金(年額)

自家用軽乗用車・軽貨物車…5,000円  
自家用普通車・自家用小型貨物車…10,000円  
自家用普通貨物車(2t以下)…15,000円

●地域商工会にご連絡いただきましたら、奈良県火災共済協同組合の職員と商工会職員が見積りにお伺いします。

しもいち  
わりばしの沿革

そもそも副署の由来については古事記のスサノオノミコトの神話にさかのぼることは歴史学者や著の研究家が記述しています。

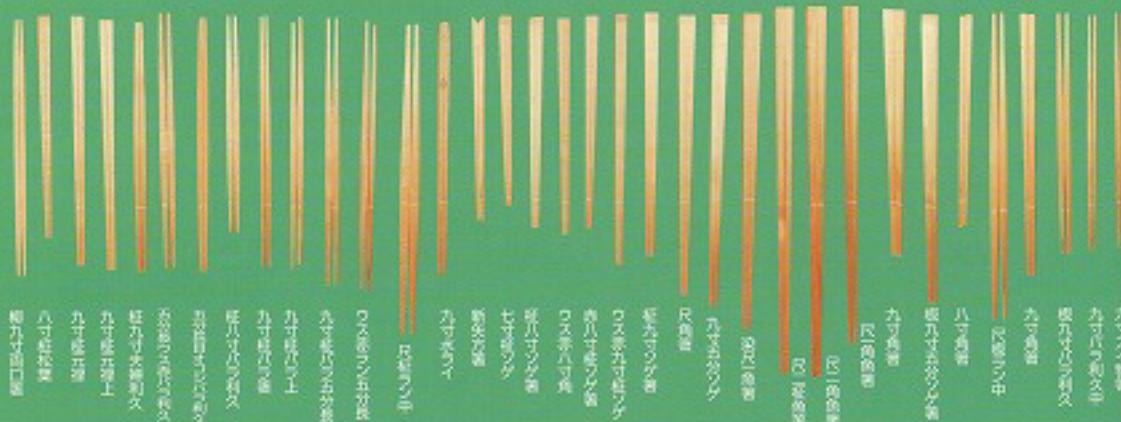
その後、南北朝の昔、後醍醐天皇が吉野の皇居にあらせられた時、下市の主人が杉箸を献上したところ、その美しい木目と芳香を喜ばれて朝夕ご愛用されたので公卿、僧侶にも使用されるようになり、次第に伝えられて今日に至っております。

江戸時代の寛政年間、割箸の製法が改善され、続いて安政年間に利久箸が考案されてから下市の割箸の名が一躍高まつたのであります。

明治になるまで販路は近畿地方に限られていたのですが、維新後国勢の伸展に伴い需要が激増して販路も全国におよび家庭工業として大きな発展をとげ「箸の町」と呼ばれるに至ったのであります。太平洋戦争までは生産は向上の一途を辿り朝鮮、台湾、中国をはじめ、遠くハワイ、アメリカまで輸出されたのですが、戦争で激減したのを終戦と共に復旧を目指して立ちあがり杉箸の他に桧箸の生産もはじめ吉野箸の生産額は倍増し、わが国経済の高度成長と共に飛躍的な発展をとげたのであります。

## ■下市の高級杉箸

厳選された吉野杉を材料として、一膳一膳心をこめてつくられた下市の割箸は、香りと手ざわり、そして口あたりが最高です。





賀新郎の天日干し

伝統の  
吉野杉



## 自然に優しい 下市のわりばし

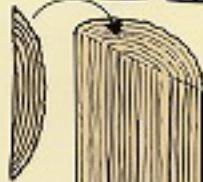


下市の創者は、檜林された吉野杉の原木を、建築製品等に製材した後に残る外側の利用度の少ない部分(背板)だけを利用して、一本一本巧みに加工し吉野杉の美しさを損なうことなく作られています。

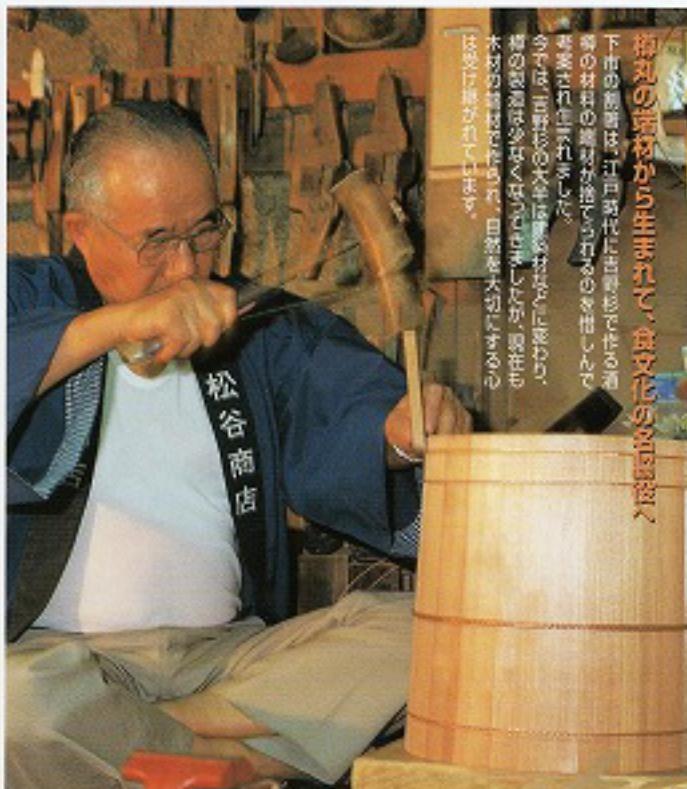
吉野地方では、あくまでも森林の恵みを余すことなく活用し、森林の保護育成を図り、清らかな水と緑、澄んだ空気を生み出し自然を守っていくことを考え、先人の知恵である削箸づくりの灯りをいつまでも大切に絶えることのないよう守り続けます。



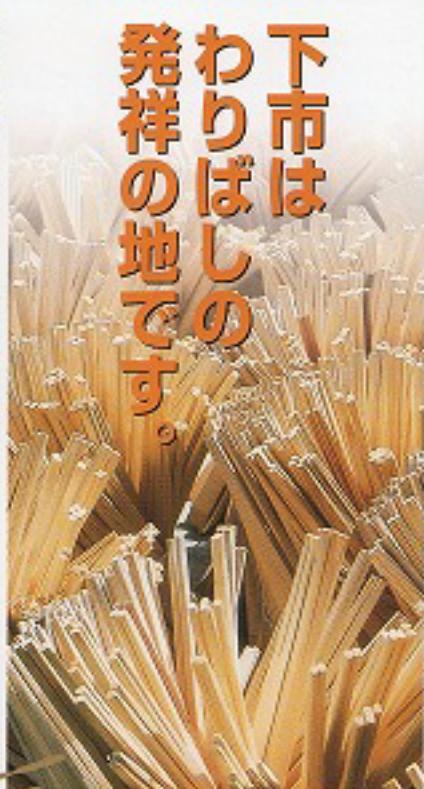
下市のわりばしは、背面だけを利用しています。



# 下市は わりばしの 発祥の地です。



梅丸の竿材から生まれて、食文化の名産へ  
下市の創始は江戸時代に古めかしく作る酒  
肴の材料の竿材が持つうわさの大きせしんで  
考案され生まれました。  
今は「吉野杉の大半は木曽材だから」といわ  
木材の表面は少しづつこぼれていますが、現在も  
木材の特性を活かし、自然を大切にする心  
は受け継がれています。



# 下市



杉箸神社

毎年6月4日(後の日)に、若狭善勝が盛大に祭り  
られます。



下市と初市

現在、2月12日(火)行われている初市(火祭)  
は往時の名残りであり、かつては  
毎月2・7日を市場日として祭囃がけ、  
たいへんにぎわっていました。かつては  
百姓の持ち運びが不自由であつたため、商人たちが紙に金額を書き  
付け「切手」として発行したものが  
下市で、日本最初の手形とされています。

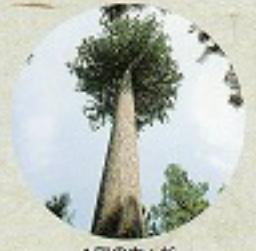


初市

約350年の伝統を誇る大和の三大えびすの一つに挙げられる奈良・商人の神として、毎年2月12日に南和地区の大野殿として、近郷近在および中和地區からの参拝客で賑わい、露天商人が露店営業と店を並べる。

# 伝統と自然のなかに 息づく産業。

吉野地域の玄関口に位置する下市町の産業は、豊かな自然を活用して発展を遂げてきました。町の総面積の七十九%を占める森林資源を活用した木工業が盛んで、とくに創始の歴史は南北朝以前にまでさかのばる事ができるほど古く、伝統産業として守り継がれています。また木工品として三方合板、神具、結婚台・神酒の口、おひつ、おけ、集成材、路木なども高い評価を受けています。



▲神の木: 杉



▲神酒の口



▲路木



▲集成材



▲杉・桧材(素材)  
木工品(木工)



▲お社



▲樽丸



桶・おひつ・厨房用品  
豊富な吉野杉を利用して、徳川中期以後、伊丹、瀬、伏見などの芳醇な酒の樽として発展しました。  
杉独特の木目と香りに伝統的な技術があいまって愛好者が多い。

